

<事業報告>

企画展「埼玉の古墳2－秩父・児玉・大里－」の開催について

中山 浩彦

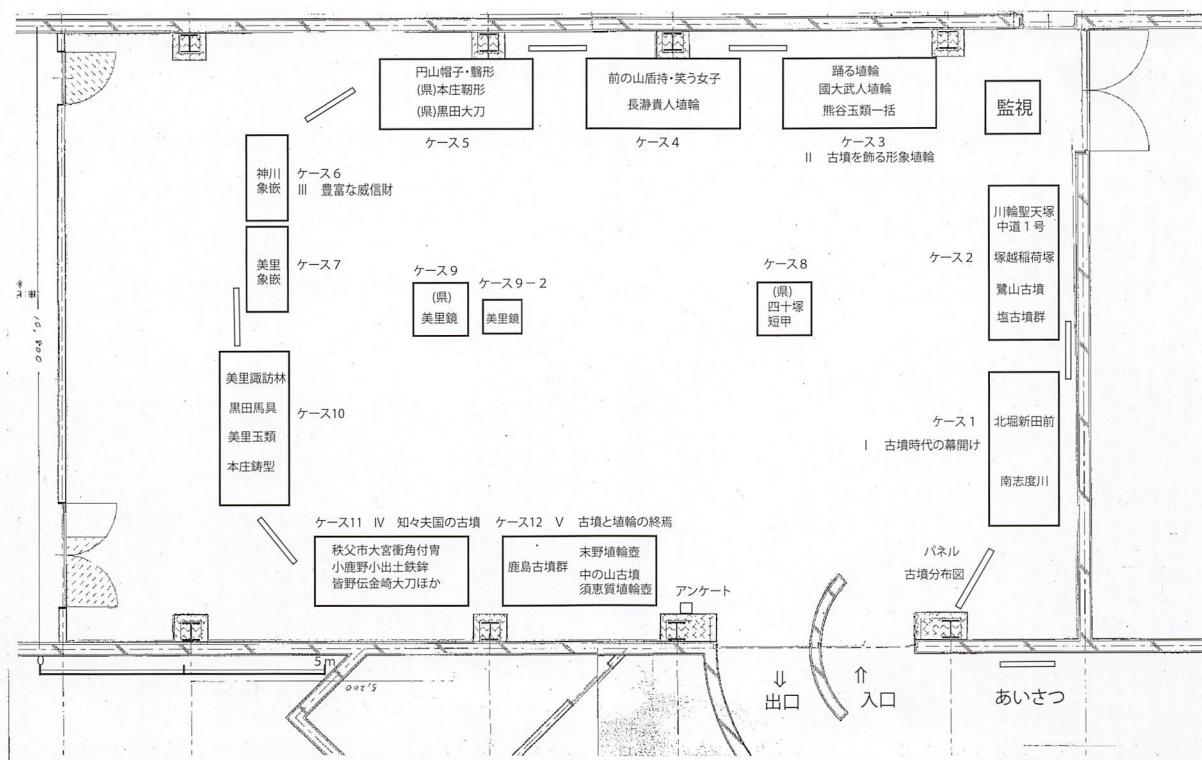
はじめに

埼玉県立さきたま史跡の博物館では、秋季の平成29年9月16日から11月14日までを会期として、企画展「埼玉の古墳2－秩父・児玉・大里－」を開催した。本企画展は、「埼玉の古墳」と題した展示会を3か年計画で行うもので、県内に所在する古墳について概要をわかりやすく紹介しようとするものである。昨年度は「埼玉の古墳1」として、県西部地域の比企・入間郡内に所在する国史跡吉見百穴などの古墳を紹介した(鈴木2017)。今年度の展示会が終了したことにあたり、企画展の概要について事業報告を行うものである。

I 展示の構成

企画展「埼玉の古墳」シリーズを開催するにあたり、3回の展示に統一感を持たせるため、①各地域の古墳を紹介することとし、集落遺跡は取り上げない、②古墳の出現と終末を把握する、との取り決めがされていたため、その2点に則した展示構成を心掛けた。

今年度の対象地域は、秩父、大里、児玉の3郡であったが、秩父郡は県内でも古墳の発生が遅れるなど他2郡との地域性が異なるため独立した章立てとし、大規模開発に伴う発掘調査出土資料に富んだ大里・児玉郡域をメインに据えた構成とした。



企画展「埼玉の古墳2」展示配置図



展示風景 1 企画展示室全景

1. 古墳時代の幕開け

最初のコーナーでは、3世紀中葉から5世紀代の墳墓から出土した古式土師器と壺形埴輪を紹介した。

古墳時代初頭の児玉・大里地域では、高塚の墳丘を有する古墳が築造される前、弥生時代に系譜をもつ方形周溝墓が依然首長墓として採用され続けるが、3世紀中葉以降には前方後方形周溝墓が造営される。両郡域は県内でも前方後方形周溝墓が集中する地域で、パレススタイル壺、S字状口縁台付甕といった東海地方西部の影響を受けた土器が多く出土する。

3世紀末から4世紀初頭には、前方後方墳の本庄市鷺山古墳、熊谷市狸塚1号墳が造られ、周溝内から出土した焼成前底部穿孔の二重口縁壺をそれぞれ展示した。4世紀中葉になると、焼成前底部穿孔で長胴の壺形埴輪を伴う中規模の円墳が築造される。壺形埴輪は、単口縁のものと口縁中位および頸部に突帯を巡らす2形態があり、胴部下半を除き赤色塗彩を施すのが特徴となるもので、3遺跡5点の資料を展示した。

<展示資料>

- ・美里町南志渡川遺跡第4・5号墓出土土師器(二重口縁壺・壺・埴)
- ・本庄市北堀新田前遺跡2号墓出土土師器(二重口縁壺・壺・小形台付甕・高坏・器台)
- ・熊谷市塩古墳群第I支群1号墳出土土師器(二重口縁壺)
- ・本庄市鷺山古墳出土土師器(二重口縁壺・市指定)
- ・寄居町塚越稻荷塚古墳、美里町中道第1号古墳・川輪聖天塚古墳出土壺形埴輪



展示風景 2 古墳時代の幕開け

2. 古墳を飾る形象埴輪

児玉・大里地域では、美里町志渡川古墳で甲冑・家形、本庄市公卿塚古墳で盾・家・柵形の埴輪片が出土し、初期の形象埴輪が5世紀中葉の円墳から見つかっている。両地域は、埴輪の生産も盛んで、埴輪製作窯は9か所確認されている。5世紀後半以降に膨大な数の古墳が造られるとともに、埴輪の需要が急増した結果と考えられる。

本コーナーでは、東京国立博物館のマスコット「トーハクくん」のモデルとなった熊谷市野原古墳出土の「埴輪踊る人々」を目玉に据え、本庄市マスコット「はにぽん」のモデルとなった前の山古墳出土の盾持人物埴輪など、児玉・大里地域から出土した人物・器財などの主要な形象埴輪を集めた構成とした。

<展示資料>

- ・熊谷市野原古墳出土埴輪踊る人々（男子・女子）・武人埴輪
- ・熊谷市伝野原古墳群出土勾玉・碧玉製管玉・ガラス玉・水晶製切子玉（市指定）
- ・本庄市前の山古墳出土盾持人物埴輪（市指定）・女子人物埴輪
- ・児玉郡内出土貴人埴輪
- ・熊谷市円山2号墳出土帽子形埴輪・翳形埴輪
- ・本庄市宥勝寺裏埴輪窯跡出土鞆形埴輪（県指定）
- ・深谷市黒田第17号墳出土大刀形埴輪（県指定）



展示風景3 古墳を飾る形象埴輪

3. 豊富な威信財

児玉・大里地域では100mを超える大型の古墳は造られず、5世紀後半以降に前方後円墳を主墳とし、小・中規模の円墳が密集する本庄市長沖古墳群、神川町青柳古墳群、美里町広木大町古墳群などの群集墳が多く見られるようになる。これらの群集墳には埋葬施設に横穴式石室が採用され、副葬品として大陸や畿内の影響を窺わせる威信財が多数見つかっている。

展示では、美里町白石第18号古墳から多量に出土した古代エジプトを起源とするトンボ玉や美里町久保第1号古墳出土の西アジアで生産された可能性がある二重構造をしたガラス玉といった渡来系遺物などを紹介した。

また、両地域に特徴的なのが象嵌が施された大刀の多さで、県内で現在確認されている資料の大半が児玉・大里郡域から出土していることから、神川町南塚原古墳群と美里町広木大町古墳群から出土した銀象嵌資料の優品を展示した。

<展示資料>

- ・深谷市四十塚古墳出土金銅装横矧板鉢留短甲(県指定)
- ・美里町長坂聖天塚古墳出土方格規矩四神鏡系倭鏡・神頭鏡系倭鏡(県指定)
- ・神川町南塚原10・58号墳出土象嵌大刀(町指定)
- ・美里町広木大町9・20号墳出土象嵌大刀
- ・美里町諏訪林古墳出土頭椎大刀・鈴鉾・銅鉾
- ・深谷市黒田第1号古墳出土轡・鐙
- ・本庄市薬師堂東遺跡出土ガラス小玉鋳型
- ・美里町久保第1号古墳出土三連金層玉
- ・美里町白石第18号古墳出土トンボ玉・ガラス玉・勾玉・管玉



展示風景4 豊富な威信財

4. 知々夫国の古墳

秩父地方の古墳は、秩父市域を中心とした荒川流域、横瀬川流域、赤平川流域の河岸段丘に集中して築造され、発掘調査で発見された古墳跡や横穴墓を含めて317基の古墳が確認されている。未調査のため築造時期が分からぬ古墳も多いが、秩父郡内の古墳の大半が古墳時代後期以降に築造されたものである。

秩父地方の古墳から出土した副葬品の中には、豊富な鉄製品が知られ、東京国立博物館所蔵の衝角付冑、小鹿野小学校から出土した鉄鉢などの鉄製武器・武具資料を中心に紹介した。

<展示資料>

- ・秩父郡大宮郷出土衝角付冑
- ・小鹿野町小鹿野小学校出土鉄鉢
- ・小鹿野町下塚居古墳出土碧玉製管玉・ガラス玉・琥珀製糀玉・土玉
- ・皆野町伝金崎古墳群出土大刀(町指定)
- ・皆野町柳瀬第1号墳出土胡籠金具・鞍・環状鏡板付轡・鉄鏃・刀子(町指定)



展示風景5 知々夫国の古墳

5. 古墳と埴輪の終焉

3世紀後半に始まった古墳の築造は、6世紀代に最盛期を迎え、6世紀末から7世紀に減少する。首長墓としての前方後円墳が造られなくなる代わりに大型の円墳や方墳が造営され、熊谷市広瀬古墳群中の国史跡宮塚古墳の上円下方墳、熊谷市籠原裏古墳群1号墳の八角形墳などの特殊な墳形をした古墳が造られるようになる。

最後のコーナーでは、終末期の群集墳である深谷市鹿島古墳群と埼玉古墳群中の最後の前方後円墳である中の山古墳から出土した須恵質埴輪壺の生産地である寄居町末野窯跡の資料を展示了。

<展示資料>

- ・深谷市鹿島第1・13・20・24号墳出土小刀・大刀・金環・鐸子・鉄鏃・刀子・鐔
- ・寄居町末野窯跡群第3号窯跡出土須恵質埴輪壺
- ・行田市中の山古墳出土須恵質埴輪壺



展示風景6 古墳と埴輪の終焉

II 関連事業と刊行物

約2か月間の会期中に実施した関連事業は、講座2回と展示解説が9回である。

講座は、当館が通年で実施しているさきたま講座の中に組み込まれており、外部講師2名により企画展に関連したテーマの発表を行なっていただいた。

①10月14日(土) 13時30分から15時30分・参加者88名

「古墳に副葬された大刀の意味」瀧瀬芳之氏(公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団資料活用部副部長)

②11月11日(土) 13時30分から15時30分・参加者91名

「北武藏における渡来系文物の受容」高久健二氏(専修大学文学部教授)

展示解説(ガイドツアー)は、会期中の毎日曜日14時から約30分の解説を9回実施し、計87名の参加があった。

関連印刷物は、B2版ポスター500枚、チラシ25,000枚と図録1,200部を刊行した。また、前年度の「埼玉の古墳1」の図録が4月中旬に完売となっていたため、本企画展にあわせ500部増刷し頒布を行った結果、会期中に1が113冊、2が289冊の販売があった。

III 広報活動

展示会の広報は、関連・類縁機関および行田・熊谷市内の公民館へのポスター・チラシを配布したほか、秩父鉄道の各駅へのポスター掲示を依頼した。

資料提供による記者発表は、会期約2週間前の8月31日に行い、埼玉新聞で毎週水曜日に掲載される県内博物館・美術館情報の「埼玉ミュージアム」欄に大きく取り上げていただいた。会期半ばの10月4日には、NHK FMさいたま放送局「日刊!さいたま~ず」水曜日のカルチャーのコーナーに担当者が出演し、生放送で展示の見どころについて紹介した。

ネット環境では、今回資料を出品していただいた熊谷市、深谷市、神川町等の公式ＨＰで展示会を紹介していただけた。

IV アンケートの集計結果から

会期中に企画展示室内で回収したアンケートは59枚で、以下の意見をいただいた。

(好意的な意見)

- ・今回の企画展でふだんは見ることのできない出土品等が多くみられてよかったです。
- ・ありがとうございました。
- ・いつも企画展を楽しみにしています。冊子も出版してくれるの難いです。
- ・今後も同様の企画展を計画して欲しい。
- ・大学生の頃に考古学を専攻しており、一度来たことがあります。その時以来でしたが、きれいに整備されていて楽しめました。また、訪れたいと思います。
- ・ほんとにたのしめるところでした。
- ・次回も期待しています。
- ・充実した企画展であると思った。
- ・今回の特別展も埼玉県の古墳の事が良く分かりました。③も楽しみにしています。
- ・古墳ガールなので、行田市の古墳はすばらしかった。歴女なので歴史がすごくおもしろい。

(批判的な意見・要望)

- ・古墳の出土品が展示されていましたが、それがどの場所なのか地図の展示までもどって確認する必要がありわかりにくかった。展示品をどう見たら良いのか説明文では全くわからない。
- ・北堀新田前の所在を詳しく知りたかった。下浅見八幡様のいた正体口伝を鷺山の説明に加えるべきであったろう。
- ・三連金層玉が見にくかった。見やすくして下さい。
- ・展示室良く整理されており大変良い。順路表示が判りづらいのが残念。特に入口付近の表示が無いのは、来館者が混乱します。
- ・古墳の実測図付けてほしい。
- ・パンフレット以外の資料を売ったらどうですか？

【企画展「埼玉の古墳2」開催データ】

名 称：平成29年度企画展「埼玉の古墳2－秩父・児玉・大里－」

開催期間：平成29年9月16日(土)～11月14日(火)

会期日数：54日間(休館日9月25日, 10月2・16・23・30日, 11月13日)

入館者数：13,651人

資料点数：約150点

《参考文献》

鈴木秀雄 2017 「企画展「埼玉の古墳1－比企・入間－」の開催について」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第10号 埼玉県立さきたま史跡の博物館